



東京都

中小企業 &
就活情報

TO 東京 KYO

カイシャパッケン伝!

GUIDE vol.18
Woman



自分らしい働き方＝プライベート×仕事の充実！

特集

#ライフ・ワーク・バランス
ライフ&ワーク!
いきいき働く女性たち

#座談会

中小企業の女性トップに聞く

#グループワーク

自己分析ワークやってみた！



デザインから工事まで技術を身に付け あらゆるシーンの看板づくりに対応

株式会社ユネクサス



巨大な看板を作るには 多能工が求められる

ユネクサスは設立以来、ビルや店舗、施設などの看板づくりを手掛けてきた。企画からデザイン、設計、製作、工事、アフターサービスまで、全ての流れをワンストップで提供する総合力を有している点が同社の強み。得意とするのは、看板業界では大型案件に位

置付けられるビルの壁面看板や、その横に取り付ける袖看板、屋上広告などという。

遠くから見る分には想像できないが、そのスケールはプールと同じ大きさと大澤代表は説明する。

「どれも間近で見ると巨大なサイズで、看板だけでも高さ25m×幅15m×4面という大掛かりな工事を私も手掛けました。看板工事は建築に限りなく近

い、スケールの大きな仕事です」

そのため看板を取り付けるにも相応の技術が不可欠。例えば、屋上に巨大看板を据えるには、まずは土台を固める基礎工事が必要になる。基礎ができたら骨組みとなる鉄骨を組み上げていく。現場によっては高所作業車が出動することもある。同社社員は一連の作業に応じて多能工として、その技術を蓄積し、今日の信頼を築いてきた。

株式会社ユネクサス

- 設立年: 2004年11月
- 資本金: 1,000万円
- 代表取締役: 大澤 恵司
- 従業員数: 11名
(内、女性従業員数1名)

- 〒120-0004
東京都足立区東綾瀬3-1-1
- TEL: 03-3606-5904
- http://www.u-nexus.co.jp
- 事業内容: 看板のデザイン、設計、製作、取付工事など

城東地区

街を彩るアイテムとして定着する看板。ユネクサスは大型案件を軸に、多種多様な看板づくりを手掛けてきた。看板は単に建物に取り付けるのではなく、実は広範囲な技術が求められる。同社では、一人が複数の工程に対応できる技術を持ち、様々な場面で力を発揮できる若手人材の育成に取り組む。

ゼロからでも挑戦できる育成で未経験者の成長を支援

1人で複数の業務をこなす技術職ではあるが、文系出身者も多数多く活躍しており、男女問わずゼロからチャレンジできるという。それを可能にするのは、同社の人材育成制度にあると工事担当、入社1年目の成田さんは話す。

「建設業の経験は全くありませんでしたが、育成に時間を掛けてくれました。また、資格取得や講習会といった勉強の場にも積極的に送り出してくれるので、技術を覚えられました」

また、大澤代表が副会長を務める一般社団法人「サインの森」が開催する看板業界に属する人材の技術向上を目的としたスクールの存在も大きい。5日間の未経験者向けプログラムのほか、定期的な勉強会に社員は参加している。

更に多能工として必要な資格取得費用の補助もあり、社員のやる気の後押しにもなっている。

より良い職場を目指して改善を重ねていく

同社は働き方の改善にも着手してい

る。例えば、一般的には、道路使用許可の関係で夜の作業も多い業界だが、大澤代表自ら交渉に臨むなどして、平日の日中の作業を増やしているという。こうした地道な努力を重ねることでライフ・ワーク・バランスの整った環境づくりを推進しようと会社を挙げて取り組む。

社内最年少で工事課長となった入社7年目の添野課長は、課長昇進を機に「サインの森」のリーダー塾に参加し、作業現場の改善が働き方改革につながると感じたという。

「チームで目標を共有する重要性を



学び、曖昧だった手順や段取りなどをきちんとマニュアル化するようにしています。皆が効率的に、気持ち良く働ける場ができれば、仕事の質を高めながら余暇なども十分に得られる環境を実現できると思っています」(添野課長)



①成田さんはガソリンスタンドの看板を主に担当しながら仕事を学んでいます

②大澤代表は前身の会社を引き継ぐ形で同社を設立。以来、看板づくりの最前線に立っています

③添野さんは社内最年少で管理職に抜てき。未経験者も同社育成制度によりステップアップができる

④社員数は11名。小さい会社だけに社内連携も良く、教え合う文化も根付いている

ここがポイント！ 働くやりがい！

街のランドマークを作る面白さを感じる日々

看板は、広告として店舗や施設、企業などの存在を、街を行き交う人に認知してもらうために欠かせない存在だ。自分の手掛けた作品が多く人の目に触れるのは、看板づくりの面白さの一つ。建物の中で最も目立つ場所に据え付けられる

のは当然のこと、大掛かりなものとなるとそれ自体が街のシンボルとなるため、クリエイティブな発想や造作にも配慮が必要となる。街のランドマークを自分で作り上げていける点が、この仕事の何よりの喜びだと社員たちは口をそろえる。



さらに詳しい
会社情報は

東京カイシャ
ハッケン伝！
サイトへ ➔

